

### 3年生「高志学」校外研修を実施しました

5月19日（木）、3年生が福井市で「高志学」校外研修を実施しました。今回の研修の目的は、地域の課題に積極的に取り組む人たちがどのような仮説を立て、どのように実践していくかを学ぶことです。午前中はクラスごとに3カ所に分かれて研修を行いました。研修先と代表の方は以下の通りです。

#### 【研修先】

A組 越廼・殿下地区（水仙畑・えちぜん海岸盛り上げ隊）

講師 高橋 要 氏（ノカテ）

B組 東郷地区（東郷・ふくいPR隊@東郷研究会）

講師 佐々木 教幸 氏（最勝寺）

C組 大安寺地区（大安禅寺・ナナセカイ）

講師 高橋 玄峰 氏（大安禅寺）

A組は、最初に「ノカテ」の高橋要さんから「仮説をどのように検証し、それを成功に結びつけてきたのか」をテーマに講義を受けました。「ノカテ」では、「水仙の素晴らしさを将来に残すことはできないか。」という仮説のもと、水仙の価値を見直し、多くの苦労や検証を重ね、今では東京を中心に様々な地域に水仙を販売しています。「一見失敗に思えても、将来、必ずその失敗が糧になるときがある」という高橋要さんの言葉に、生徒からは「自分の『問い』を見つめ直す機会となった。今後の検証の参考になった。」などの声があがりました。



B組は最初に一乗谷朝倉氏遺跡で資料館の方に現在の取り組みについてお話しいただいた後、東郷地区に移動し、3つのグループに分かれ、ふるさと茶屋「杵と臼」・アンテナショップ「こびり庵」・トンデモ図書室伊藤堂さんなどを訪れ、お話を伺いました。代表の佐々木さんは「東郷は町の人がよく話し、何かしたいという雰囲気がある。そして誰かがやりたいということと一緒に面白がってやる土壤がある」とおっしゃっていましたが、他4名の講師の先生方だけでなく、通りかかったお寺さんやお店の常連さんなど、誰もがつながっている温かさが感じられました。生徒は「ないものを嘆くのではなく、あるものの生かし方がすごい」と感想を述べていました。



C組は福井市の大安寺・宮ノ下エリアを訪問し、「ナナセカイ」の方から、課題、そして課題への向き合い方などの極意を伺いました。大安禅寺の住職の高橋さんは「地域を知ること、そして地域の人への声かけをして、つながりを持つことから始めた。」と述べられ、それに対し、生徒からは「地域に文化財などが少ない場合、どのように町おこしをしたらよいか。」などの質問が出ました。また、廣部硬器の磯部さんからは商品開発について「とにかくやってみる、実験してみる。」という今までの概念にとらわれずチャレンジすることの大切さを伺いました。



どの団体も、生徒達相手に熱心にお話ししてくださり、その前向きな様子がとても生徒にやる気を与えてくださっていたようで、生徒たちは今後自分たちが取り組んでいく、自分の「問い」に対する検証方法や仮説の見直しなどすることができたようです。